ひだご坊真宗教化センターだより

2024年1月号

Shinran S50th S08th

<慶讃テーマ>
南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

発行日:2023(令和5)年12月26日　第42号　発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番　三島多聞

高山市鉄砲町６　℡ 0577-32-0776　web http://hidagobo.jp　✉ takayama@higashihonganji.or.jp

一年の声

■年を越え

飛騨御坊真宗教化センター2期目となる７月より、育成部会の幹事を拝命した。これまで長く担当してきた広報部門を離れ、新しい部門に飛び込むことに大いなる不安を抱え、これまでの半年を過ごしてきた。同時に、ともに事業を運営する仲間には、大いなる不安を与えたことだろう。しかしながら、仲間のご理解・ご協力のおかげで、８月には寺族交流会、10月には声明儀式作法研修会を開催することができた。紙面をお借りして、皆さまに厚く御礼申しあげます。

「教化の集大成は報恩講にあり」。センター設置から一貫してセンター長が「つねのおおせ」として述べてきた目標である。「私たちの事業は、集大成として資することができただろうか」と、飛騨御坊と自坊の報恩講を終え、考えている。

暮れから年明けにかけて鳴り響く鐘の音が、私の身に「ゴォーン(ご恩)」と聞こえるのか、「ボォーン(忘恩)」と聞こえるのか、そんなことも･･･。

■鐘の声

自坊に帰る前だったと記憶しているので、ずいぶん昔のことになるが、インターネットで調べものをしている時に面白い記事に行き当たったことがある。

虫の鳴き声を「声」として認識しているのは、日本人とポリネシア人の２つの民族だけだ、という記事だった。声ということは、言語として認識しているということである。この２つの民族以外は、「音」(音楽、機械音、雑音)としてとらえているとのことだ。これは、虫の鳴き声を、言語脳である左脳で聞くか、音楽脳である右脳で聞くかの違いにあるらしい。これは、日本民族特有の資質ではなく、日本語がそのような脳を育んでいくのだということも記述されており、調べものの目的とは全く異なる内容であったが、興味深く読ませてもらった。

「あれマツムシが鳴いている」で始まる日本の童謡。タイトルは「虫のこえ」。松尾芭蕉の有名な俳句。「閑けさや岩に沁み入る」とくれば、「蝉の声」。さらに言えば、『平家物語』の冒頭は、「祇園精舎の鐘の声」。インターネット記事の信憑性はさておき、生きものだけではなく「モノ」の声までも聞いてきた歴史は事実である。

■柿の声

あるご門徒さんのお宅で、命日経を済ませて帰る際、お土産に大きな柿を持たせてくださった。「立派な柿ですね！」と言うと、「これはお念仏の柿なんです」と、ご門徒さんが答えた。

「そんな銘柄の柿は聞いたことがない･･･」と思いながら言いよどんでいる私に、ご門徒さんが理由を教えてくれた。大きな柿は、ご自身が30年以上前に参加した親鸞教室(高山版同朋の会推進講座)の後期教習で出遇った方が、毎年送ってくださる柿だった。ご本山で出遇って以降、手紙や電話で語り合う仲になられたそうだ。お念仏からいただいた出遇い、その友が送ってくれた柿は「お念仏の柿」なのだ、と。柿からお念仏を聞かれたことに驚くとともに、お念仏が柿を通じて30年以上前の出遇いを現在にみずみずしくよみがえらせていることに、とても感動したことを覚えている。

■事業の声

先般厳修した、自坊のお七昼夜報恩講。ご法話の中で「報恩は知恩に始まる。報恩は聞恩に始まる、と言ってもいいと思うんです」と、ご講師が語られた。「報いるとは」、「知るとは」ということが、自分の中ではっきりしないままモヤモヤし続けていたが、「聞恩」という何ともいえないみずみずしい響きが、私の出発点を示し、歩み出す力を与えてくれたような気がした。集大成とは、終着点を求めることと思っていたが、聞いていく歩みをたまわる、私の出発点をたまわることではないかと、改めて考えさせられた。一人ひとりの「聞」の場となり、歩みの出発点をたまわった感動を同朋とともに確かめ合うことが、集大成としての報恩講なのではないか。

「真宗念仏ききえつつ」(『高僧和讃』善導讃)と、親鸞聖人は真宗を「きく」という言葉で確かめている。「聞く」ことがなければ、真宗はどこにもないということでもある。聞くところに興ってくるのが、真宗であり、また報恩でもあるのだろう。今後のセンターにおいても、文字や言語として標榜されることに留まらず、声を発するような、聞くことが促されてくるような、生きた事業が展開されていくことを願っている。

センター育成部会　幹事
高山２組　圓徳寺住職

謹んで　新年のご挨拶を申し上げます

２０２４年元旦　　高山別院照蓮寺・飛騨御坊真宗教化センター

★ 飛騨御坊 高山別院運営の見直し････別院経常費５５０円増額の根拠･･･★

今一度お読みいただき、ご門徒さまへの説明をお願いいたします。

別院経常費値上げの説明に伺った先で、５５０円増額の根拠について質問がありました。２０２２年に各組所長・輪番巡回の折に高山別院の教化と維持運営について、歴史背景から、別院運営の粗筋をお伝えさせて頂きました。今一度、当「センターだより」にてお伝え致します。

過去には春秋彼岸、報恩講に、地域の世話人様に懇志帳を回してご依頼をしていましたが、高齢化が進み後継者が無くなりつつあり、時代の風潮も考え、これを機にご坊報恩講懇志として一本化し、１戸当たり５００円程度のご懇志の取りまとめを各ご寺院にお願い致しました。その懇志額について充分伝わらなかったため、懇志額は各ご寺院間によって大きな差となって、今日まで続いておりました。ここを改善し全門徒が平等に公平に取り持って下さる方法として、ご懇志額分を今回の増額とさせて頂いた次第です。

高山への観光客増加に伴い、境内地内の「駐車場収益」を収入源として特別会計を１９７１（昭和４６）年に設け、観光バスを柱とした駐車場収益は順調に推移しました。特別会計の収益は、営繕、境内整備、高山教区の教化事業充実に多大な寄与をしてきました。同時に、特別会計から経常会計への繰出金支出が始まり、膨らむ経常会計の収支を支えましたが、駐車場収益に大きく依存する会計体質が醸成されていきました。

東日本大震災以降、観光需要の低迷や市内駐車場の整備が進み、駐車場収益事業は下降線をたどり、新型コロナ感染拡大により駐車場収入はほぼゼロになりました。コロナ蔓延後の先行きが見通せない中、財政内容の更なる悪化は不可避となり、特別会計の繰出金に依存する財務内容の改革と、経常費増額について審議してきました。

２０２３年１０月１６日開催の院議会臨時会において、経常費増額の件は、賛成多数で次年度から増額することでご承認を頂きました。

つきましては、①顕在化した財政問題の見直しと、経常会計と特別会計の独立を図りつつ、②経常会計の安定財源を確保していき③駐車場収入については庫裡等老朽化問題を視野に入れ、後顧の憂いを解消すべく、中長期計画の資金にしてまいります。

高山別院輪番　三島多聞

寺族交流会座談会「同朋唱和の回復に向けて」④　座談Ⅲ（最終）　　育成部会

（手渡していく課題）　同朋唱和について、どうなれば目標達成になったのか、非常に分かりにくい目標ですね。ただ永遠に向き合い続けていかなければならない課題だろうと思いますし、「自分たちの代で達成しました」というようなものでは無いと思います。ですから、次の世代にも課題として手渡していけるような取り組みをしていかなければならないと思います。

（「ケンリョウ節」・子ども会の重要性）　三世代同居で一緒に特徴的な節の「正信偈」をお勤めされるお宅があります。その節のルーツは、前々住職の院代をされていた〇〇賢了(ケンリョウ)という方が、「和讃講」と称し各地区でお勤め等を教えられていた半世紀以上前の歴史です。その方の節が今も「ケンリョウ節」と呼ばれ伝わっているのです。その家の若いお母さんや子どもたちもお寺のお勤め会で練習されましたが、今同朋唱和すると、立派な？ケンリョウ節に戻っています。その地域や家に長く伝わった歴史に帰るんです。これは「伝わっている」確かな証拠です。正しい声明という観点では、「正調の正信偈」とか「きれいに揃った正信偈」ということも大切ですが、僧侶が「ケンリョウ節」をどのように受け取るかはもっと大切です。同朋唱和の実を絶やさないために、どんな種をどのように蒔くのかというのは、僧侶の発想や努力に依ると思います。同じ方向を向いて僧俗共にお勤めする、という同朋唱和を抜きにして真宗の宗風はないでしょう。意味はわからずとも同じ目線で一緒にお勤めするという景色、その宗風は、学ぼうと思って身につけられるものでなくて、世代を貫いて受け継がれていくべきものだろうと思いますから、子ども会の重要性は必然です。

子ども会はもう出来ないというよりも、なぜ出来ないのかを考え、どうしたら出来るのか、という視点を持つべきでしょう。でもお寺単独でやるには厳しい現実もあります。地域を巻き込みラジオ体操や行事と一緒にやれないかとか、その地域のコミュニティーの中で、僧侶が作りがちな真宗門徒という囲いを越えていく発想や努力、そんな意識の転換もないと難しいかと思います。 だから教化の三本柱はどれも大事です、お互いが関連し合っているからです。青少幼年教化の充実は、最終的には百年教化とか十文字教化の太い軸だと思います。お寺に集まるだけでなく、3 回に 1 回はオンラインにしてみて次は必ず対面にするとか。今回はここ、次は別のお寺を会場にするとか、地域的な協力共働を考え工夫をする。やれない前提よりも、やってみたらやれたという実績と自信を、コツコツと積み上げていく重要性を皆さんの話を聞いて思うことです。

あるお宅で、おじいさんの死を縁に同朋唱和をお勤めしました。初めはお勤めできなかった若い世代の方達が、二七日参りには見事に上達しているのです。どうしたの？と聞くと、YouTube で毎晩練習しました、と。そういう時代なのです。YouTube という現代ツールの存在を実感しました。時代変化の渦に揉まれながらも伝わっていき、私も育てられることに、前向きな意識を持つ。伝統に縛られず、伝統の本質を訪ねる意識が、結局は大事なような気がします。

（葬儀を通して浄土真宗を学ぶ）　御遠忌法要で同朋唱和を行いましたが、何でこんなことをやらないといけないのかと素朴に思いました。逆に言うと、同朋唱和をやらないといけないのが実態なのかと感じました。初めて「正信偈」をお勤めしたのはいつ頃かなと思い出しますと、多分、お寺の元旦の互例会かなと思います。家では、父親は仕事が終わり帰ってきてご飯を食べてから「正信偈」をお勤めしていました。何をやっているのかなと思って見てはいましたが、実際に父親からお勤めを習ったとかはありませんでした。「正信偈」を読んでみると、先ほども出ていましたが、色々な記号があるのを見て、これが上がるのか下がるのかという話になって、それが聞法意欲につながって動いたのかなと感じます。同朋唱和をしなければいけないというのは、昔から当然のようにあった「正信偈」を覚える場が、非常に少なくなってきたということです。

特に葬儀ですが、ホールにおける葬儀は、葬儀じゃないのではないかと思っています。私は父親も母親もお寺を会場に葬式をやらせてもらいました。親父の葬式が終わった時、近所の方が、久しぶりに葬式らしい葬式やったと言われ、それが心に残っています。最近コロナが収まってきても、葬儀場では未だに「午後６時から７時まで焼香」とか書いてある。ああいうのが残っているのは、住職さんたちは一体何をしているのかと思う。あれが葬儀だと認めて、「ただお経をあげておればよいと思っている」と見られても仕方がない。本来の葬儀とはそうじゃないですよと議論して、葬儀会社を説得するようなことを果たしてやっているのか。また、御本尊をおかざりするのが儀式だということですね。これは当然のことなのですが、葬儀場には御本山からいただいた御本尊が安置してあるのか。私たちは葬儀というものを通して、浄土真宗だとか、お経だとか、あるいは手を合わせるということを知らないうちに学んできたのですが、そういう場が無くなっている。無くなっているというか、やろうと思えばやれるにも関わらずやってないのが現状ではないか。つい最近、高校の同級生が亡くなり、私も葬儀にお参りしましたが、高校の同級生が何人かお参りに来ていました。焼香してお帰りいただいてもいいよう準備してありましたが、できれば一緒に残ってお参りしてもらうよう一言声をかけて、みんなでお参りしました。

同朋唱和について、今日の話も非常に重要だと思いますが、本来は最も集中的に葬儀を通して人の生き方とか、その中で自分がどう生きていくのか、自分がどのような葬式をやっていただくのかというようなことを考える場を、もっと活かすことを真剣に考えないといけないのではいかということが私の思いです。

※　座談会内容は、３回にわたって掲載いたしました。
※　要約編集はセンター事務局で行いました。

２月号からは、「『正信偈同朋唱和集―現代語訳付』発行の願い」と題し、しんらん交流館 HP から「高山教区『正信偈同朋唱和集―現代語訳付』発刊にあたって」を転載いたします。

飛騨御坊ホームページ『ひだご坊一口法話』１月

佐藤　義晃氏（清見組了徳寺住職）
渡邊　侑希氏（清見組了因寺住職）

WEB 一口法話はこちら

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

真宗公開講座―第3・4回ご案内

第３回　１月 24 日(水)　１４：００～　真宗同朋会主催
「水平社発祥の地に生まれて」　清原隆宣氏（本願寺派西光寺）

第４回　２月 18 日(日)　１４：００～　大谷専修学院主催
「念仏する法蔵」　狐野秀存氏（大谷専修学院前院長）

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院　2024 年 1 月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会 場
1	月	0:00	別 修正会　法話:輪番	本堂
2	火	13:00	別 修正会　法話:小原正憲氏(専念寺住職)	本堂
3	水	13:00	別 修正会　法話:輪番	本堂
4	木			
5	金		別 鏡開き	
6	土			
7	日			
8	月		教務所冬期休暇～８日まで	
9	火			
10	水			
11	木	13:00 15:00	別 大谷婦人会新年互例会　法話:三島多聞氏(輪番) 教 育成部会	本堂 研修室
12	金			
13	土	7:00	別 前住上人ご命日	本堂
14	日			
15	月	8:00	別 半日華	
16	火	19:00	組 高山２組親鸞教室③	御坊会館
17	水			
18	木		宗 全国教区駐在教導研修会（～19 日）	本山
19	金		組 高山２組新年会	
20	土			
21	日			
22	月	14:00	セ 伝道部会・真宗同朋会会議	研修室
23	火	13:30 19:00	教 聖教学習会①（講師：名和達宣氏） 組 高山２組親鸞教室④	研修室 御坊会館
24	水	14:00	セ 真宗公開講座③（講師：清原隆宣氏）	御坊会館
25	木	13:00	組 高山２組坊守会	研修室
26	金			
27	土	13:00	別 親鸞聖人御逮夜	本堂
28	日	13:00	別 親鸞聖人御命日　法話:澤邊惠亮氏(誓願寺住職)	本堂
29	月	15:00	教 企画会議	研修室
30	火	19:00	教 教化研究所	研修室
31	水	15:30 19:00	組 高山１組末日会 組 高山２組親鸞教室⑤	研修室 御坊会館

2024 年 2 月　**※１５日ころまでの掲載とし、定例行事は省きます。**

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
5	月	14:00	教 開顕・育成　正副幹事会	14	水	13:30	組 高山２組門徒会報恩講
9～11			組 高山２組親鸞教室後期教習	15	木	19:00	セ 高山地区組長懇談会